

さわやかトカラ情報

一隅を照らす十島の教育

発行元 十島村教育委員会

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 ☎099-227-9771

E-mail toshima-ky@tokara.jp

三月・・・美しき島

十島村教育長 原口 英典

「茄子の花」(坪田勝秀著)を読み返す。その中に、著者が島の高等学校に勤められた時の体験談が描かれている。それは、「離島」を故郷とするある生徒が、大学の受験の時の面接において、「離島」という言葉について問われた際の応答と、その生徒の応答の報告を受けた著者の感性の一文である。引用をお許しいただきたい。

生徒曰く「私も離島という表現は好きではありません。私の故郷は、温かい人情と豊かな自然に恵まれた美しいところですから、離島と言わず美島と言いたいです。また、交通の便がよく生活しやすい本土は、便島と呼んだらいいと思います」と。

どこかを中心としての、「離島」という命名。単なる地理的遠方に止まらず、さまざまな負の価値をも加味された表現。

これに向き合って、「離島といわずに美島と言いたい」という故郷を誇りとするこの生徒の生き方。このような生徒を育てている教育は、やはりすごいと思う。

私たち十島の教育も、子どもたちが、故郷を「美島」として誇りにしつつ、併せて他の地理的環境に生きる人をも文化をも尊重できる生き方を教育実践の軸足に据え、営まれている。

ここに生きて学ぶ子どもたち。ここにいて子どもたちへの教育や自己教育の機会を得られた教育職としてある私たち。今一度、誇りある生き方とは？を深く見つめるとともに、ここ十島に生きて働く真の意義を問い返したい。

地区の教育論文に応募した十島村の先生の一人がその前書きに、「天意百語抄」(徳永康起著)からの一節を引いている。

「教育を衣食住のためにする人のことを『教員』という。知識、技能を授けることを任務とする人を『教師』という。子どもたちの心に『火』をともし人、これを『教育者』という。」と。

【村定例教育委員会開催】

平成25年3月定例教育委員会は、3月25日(月)に役場会議室において開催されました。教育長の行政報告の後、平成25年度教職員人事異動、平成24年度補正予算及び平成25年度当初予算案等について審議され、提案された案件について全て承認されました。

【ファミリー劇場希望調査】

平成25年度のファミリー劇場希望調査を行います。4月22日(月)までに各学校にお申し込みください。

【村内小中学校卒業式挙行】



<諏訪之瀬島分校> <悪石島小中学校>

村内小・中学校の卒業式は、3月に、それぞれの学校で厳かに挙行されました。

各学校の卒業生は、次のとおりです。

- ・口之島(小1人,中1人) ・諏訪之瀬島(小1人,中2人)
 - ・悪石島(小1人,中1人) ・小宝島(小1人,中1人)
 - ・平島(小2人)・宝島(小1人)・中之島(小0人,中0人)
- 中学校卒業生5人は、全員希望する高校へ進学しました。心からお祝いいたします。

【入賞おめでとうございます 一持ち味を生かす子どもたち】

第9回環境かへ新聞コンテスト

優秀賞(努力賞)・平島中学校
入選 ・平島小学校

平成24年度薩摩おれんじ鉄道絵画コンテスト

学校賞 ・諏訪之瀬島分校
入選 ・宮脇麗也(諏訪之瀬島分校中2年)

平成24年「お菓子で元気になろう!」作文コンテスト

特別賞 ・口之島小学校

第27回鹿児島県小学校書写展

「毛筆の部」

- 優秀賞 ・森 文音(小宝島小5年)
- 特選 ・森 祐太(小宝島小6年) ・平田進之助(宝島小4年)
- ・平泉翔大(中之島小3年) ・羽生伊織(中之島小4年)
- ・平泉開翔(中之島小5年)
- 入選 ・有馬 蓮(小宝島小3年) ・清水宏太郎(小宝島小4年)
- ・東 真優(小宝島小4年) ・小林ひかる(中之島小3年)
- ・小林 葵(中之島小3年) ・飯田輝星(宝島小3年)
- ・中村久光(宝島小4年) ・飯田 陽菜(宝島小6年)

「硬筆の部」

- 特選 ・森 清香(小宝島小2年) ・平田一華(宝島小2年)
- 入選 ・東 桃香(小宝島小2年) ・寺田碧海(宝島小1年)
- ・羽生偉琉(中之島小2年)
- 佳作 ・岩下孟司(小宝島小2年) ・有馬 凛(小宝島小2年)
- ・平田舞佳(宝島小1年) ・中島大志(中之島小2年)

【教職員の人事異動】

平成25年度教職員の異動発表は、3月21日(木)に行われ、本村関係では、校長1人、教頭3人、教諭・養護教諭27人(含退職者)・事務職員1人、計32人が異動となりました。在任中のひたむきな御尽力にただただ感謝しきりです。

なお、宝島小学校在籍で教育委員会勤務の繁山良則事務主査は、喜界町立喜界中学校へ異動となりました。

また、事務局勤務の富田忠弘社会教育指導員は、退職することになりました。お世話になり心から感謝いたします。

【絆】 シリーズ 山海留学生として学ぶ

宝島での6か月を振り返って その2
坂野 誠省 現在中3年生<熊本市>(宝島中2年生時)

振り返ってみると、僕が宝島に来た理由は、自分を変えたいと思う反面、正直とにかく親から離れて、楽しく過ごしたいという気持ちが強かったです。しかし、最初に訪れた時に島の皆さんが温かく迎え入れてくれたので、そんな軽い気持ちで来たことが恥ずかしく思ったことを思い出します。それから、海が想像以上に美しく、また前ごもり港の壁画の巨大さには本当に驚きました。また、初めて学校に行ったときに、先生方が優しく接して下さったことが強く心に残っています。

僕が熊本にいたころは、髪を染めて、夜に出歩くことや、未成年には禁止されていることも数々する生活を送っていました。周囲に流されやすく、あまり深く考えずに行動する、今思えば悪いこともたくさんしてきました。

時には、親になぐりかかったりしたこともありましたが、そんな僕を学校のみんなや先生方は、いつも温かく見守ってくれました。初めは、なかなか自分から話しかけられませんでした。みなからいっぱい声をかけてもらったり、絵本なども読んでもらったりしました。また、ただ一人の中学3年生の牧口優花さんには、毎朝迎えに来てもらったり、学校や島のことを教えてもらったりしました。そして、先生方とは、とにかくたくさん話をしました。また、一人一役の大事な役割がある島民みんなでの大運動会や一人一人の出番がたくさんある文化祭などで、責任をもって取り組み、やり遂げる大切さを学びました。

何より、劇の主役を経験させてもらい、思いっきり役になりきって演技したことや僕の好きなダンスや歌をいっぱい歌い踊ったりして、上手になる手ごたえを感じるたびに、本当にうれしかったし、一生の思い出です。(4月号へ続く)

【子どもたちの作品】

南日本新聞「若い目」
<H25.1.29>より
おかしな調理実習 森 文音 小宝島分校小5年生

「ガチャン、ガチャン。なべはこれかなあ」。これから兄妹だけの調理実習が始まります。私の学校は中学生も合わせて11人しかいません。5・6年生は複式のクラス。5年生は私一人、6年生は兄一人なので、兄妹二人だけのクラスです。

家庭科や図工、外国語などは、いっしょに勉強します。今回の調理実習で、ごはんとみそしるを作りました。兄はオムレツとさつまいもサラダを作りました。道具の準備も調理するときもいっしょなので、家なのか学校なのか分からない、なんだか変な感じがします。

でも、兄は調理しているときにアドバイスしてくれたり、昨年の調理実習の時のことを話したりします。今回はみそ

しるにむらさき色のさつまいもを入れたので、むらさき色のみそしるになってしまいました。

見た目はあまりおいしくなさそうだったけれど、それでも、二人で楽しく作ったごはんもみそしるもオムレツもさつまいもサラダも、とてもおいしくできあがりました。

この調理実習で習ったことを生かして、おうちでも料理を作り、母を楽にさせたいです。これからも兄妹協力し合い、つらいことも乗り越えていきたいと思います。

【先生方の教育論文審査結果】

日置・鹿児島郡地区主催募集教育論文・教育実践記録に、村内の先生方から多数の応募がありました。

審査の結果、推薦(校長・教頭)12人(13点)、特選6人(内「波動」に掲載1点)、入選36点、努力賞1点の計54人(56点)というすばらしい応募状況でした。また、村内の7校全てが学校賞にも輝きました。先生方お一人お一人の教育実践に心より謝意を申し上げます。

次に、特選の先生方を紹介します。

- 養護教諭 ・山田浩美(口之島小) ・満木 暹(諏訪之瀬島小)
- 教諭 ・海老原 悠(中之島小) ・鶴長隆盛(悪石島中)
- ・森 信浩(小宝島中) ・大園祐介(宝島小)

十島村の小・中学校からのメッセージ

悪石島小・中学校 教諭 池林 理恵

教師としての経験は初任校の4年間だけでした。そんな私にとって悪石島への異動は正直、不安だけしかありませんでした。初めは、複式授業や中学校の授業、校務分掌と、自分なりに試行錯誤してみるものの、うまくいかないことの連続でした。しかし、「一人一人と深く向き合える」という極小規模校最大の利点に気づいてからは、その子に合った指導法を模索し、時間をかけて丁寧に関わることができました。子どもの反応が手に取るように分かるので、思うようにいかず落ち込むこともありましたが、それは自分を成長させてくれるチャンスでもありました。そして、どんな苦労があっても最後に救ってくれるのはいつも子どもたちの姿でした。「子どもの持つ可能性ってすごい!!」と感じた時に、この仕事のすばらしさに改めて気づくことができました。

日常生活の上でも、「コンビニなどのお店がない!!」・・・一体どんなところなのかと不安はたくさんありました。確かに「欲しいものがすぐに手に入らない」「行きたい時に行けない」という不便さはあります。ただ、そんな生活だからこそ知ることのできる豊かさがあります。時折いただく新鮮な魚や野菜は、島の方の優しさも加わってお腹のみならず心まで満たしてくれます。また、満天の星空の下で夜風に当たりながらいただくお酒は格別です。行事もない休日、昼寝をしたり散歩をしたり、「気の赴くままにのんびり過ごす」ということも島ならではの楽しみではないかと思っています。

教職員仲間である「あなた」へのメッセージ

離島教育の課題、生活する上での不便さ。離島での生活の中で、壁にぶつかることもあるかもしれませんが、でも、ここで生活した人にしか分からない魅力がたくさんあります。何事も「自分次第」。自分の気持ち一つで良くも悪くもなります。「～があれば」「～ができれば」そんな気持ちに縛られず、柔軟な発想と行動力を持つことが大切です。ぜひ多くの先生方が、ここ十島で教壇に立つことを願っています。